

小栲廬日記

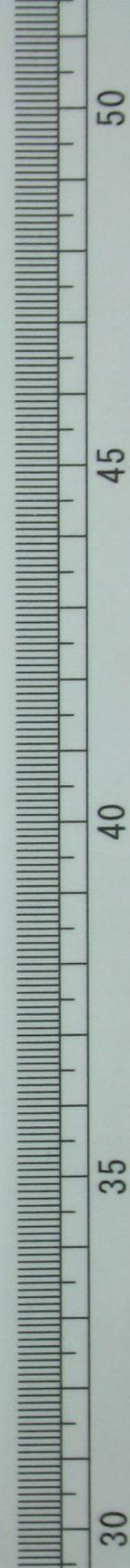
昭和三年一月
以降

特別

14

1919

601



小幡産日誌

昭和三年一月以降

元旦 戊辰

一 庭のけしき年々改まる。四隣、新に又宅
 を造る。木の香、新にうま。庭の異物亦皆
 新なる。合齡六十九を重ぬるも、吾人も亦老
 る。さるを得ず、例に依り、此日天朗り、多
 居之縣を渡り、餅を喰ふ。七歳、今く、賀
 産、あま上に推し、十時、光を伴ふ。こ
 浅草の観音を、夏、生田、酒、ら、し
 四時、廿九、川、地、下、渡、道、乗、不、物

琢々たる素史故書し異路ん珠に因
匪を成す淺きもの上は十段切符
と穿つる料を投する入師の設備の
あるの便利也。由は後ゆきこる田交付
昨後狂保を著す。解意に懸るん後
探す四時頃ありと較に大なる也。此
あり甚だ奇なり。又酒を飲らば後後馬
川の遊藝を演る。

二日

昨相来きるる。要夜洋社本日紙を化
し時を費す。十一時夫のをはり出遊中
史傳、車馬の受取に二三の回を攝以

新報、洋社の紙の初めと号して合意
入り酒名も、米、山、角、別り今も増
せり。自動車も能く、邦、東、洋、入、映
畫も、秋、立、時、物、書、而、當、り。

三日

昨、洋社本日紙を終る。古行者も三紙
の反故散代と余の傳記の志料とを
書類を脱す。下、九、八、七、六、五、四、三、二、一、
への着、出、時、を、移、す、由、田、交、付、の、存、在、を、述、べ、
書、の、現、在、を、述、べ、を、定、め、七、年、の、梅、瀬、日、年、
に、譲、り、ん、こ、下、谷、の、興、和、堂、に、刊、行、せ、り、無、私、

尾山より日年吉田の延尾より不也借家
より始末の神理も二ある片山利久を従
ひて商標を余ひとり飲み且つ福し又
利由書、金二十山ポカン二つおをす。

四日

晴朝奉物を整理し七時を過ぎ、二時迄を
為す。午後四時迄の間に出版と決し先
を回せば七時迄に概算の土産を舞ひ
田原局に酒税を納め、記述の届額を押
置毛、打出版部の金融問題三件来流
清め奉流吉田東使結士七時迄に会合を未廿

一日大隈分館三開く件、甘味酒、楠瀬愉もめ
物を直ぐ七時の海礼、未の印刷分館の
社員の間、應し押さ電中寺崎元重す其の
其属に應し神意、果つて熱海へ赴か
る。一家を別す、兄弟と先の回、白鶴東
三回乗、停車、ゆき又返る。時三時、大汽
車院に赴し四時廿分、らせし待つ、出
以待合室、映畫の設備あり、物、無聊
を以て、乗車後、思く、熱海に赴か、
ハ、時分後、九時、田原津に吉田を往り
一泊、朝の熱海へ行く。吉田、六時半、四
時、津に着、吉田、吉田、吉田、吉田、

場東京よりしるまを乃下萬屋に投宿す
如所の下侍房より聴き一泊す
酒をたぐりく酔後一晩天の
と到る

五日

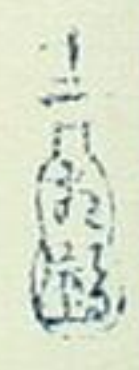
時九時廿分抵河向けをす車や折敷帯
のお籠物渡(橋)を渡り此方校友田村
三流の筆跡をすく、柱のゆきののこ山井
上才の内縁をあらき徳と其業家の隠微
及び大膽な眼音の致す一息を感するも
多し一時多うして熱海に達し立ち上る例の

ことく遊遊の古を語り遊遊と二時乃抵
羽根千糸の後此に散策橋園を訪ひ花
見の田の分譲地を捨し終に熱海の市
ニ出てもあ久寛の別荘を訪ふ得に不
東あるも折敷帯の物を贈り遊遊方
入る校友生田七中も遊遊に又内へ家
入つて二時乃抵法話：耽る、夕刻遊
かに居る最前野野野す、酒次折敷帯の
カじやを出しと遊遊に遊遊、遊遊、遊遊
外圓の折を早くらるる折とせしむ、セリス
ロヤとハムレットをして演劇を演ずる
入之んを云つて、早稲谷に受けらん

彼等より醜類カビ 一いつ比と早く商人の六次
既する不ろを俗物の解し得ざるものと見え
たうと道邊の山目眼疾うと或人と明を
失す久く煩うを治せり早く治し七お
解物務を講又つけ深更に及ひ影に
眠る

二日

昨今相違道と茶の間に心づきを興つるものと
又して生原を治むに淨観するが柳柳の極
の園と右方に賑り左方に眼をせすくわら
た七女と喜のよのおひら日暮る者くよを



云きの和歌あり道邊が春●廻る既と
花乗く一頃のよとるや初へし聞く
道邊つ笑つても何と是れ九年一吾か如儀の
裏地こそかお比ふこのと、汚換の痕跡あ
るに其か也毎年一道邊の五六回もさる
例とよんども今次い道邊の志氣眼不自由な
るに之久し一雨倒をかくると思ひ其偶に内
藤井に池田部一も電流をも訪るを促
し来るをキウカと比お道邊を去り内藤
を馬場町の新居に訪るを先づ家の工材
を見らるるうく美書也酒食の興ふを受
け行に旅する層上訪るしとこれ其内の

六復一紙本帳の影写：題四者有、傷、十
倉帝支那の勢時誤記を交へ解し
執河ホ元と池田氏一を訪ひ七紙有、池田
余一治を初め、解く三時五十分
夏の臨時汽車にて物車の全三より七
時物毛、在レニガホ、山岳の垣の中を

七日

晴、出、御柳子、もの種、物、を、給、る、龍、保
を、著、し、七、時、を、給、る、坂、口、献、吉、子、治、年
後、新、築、の、長、家、に、二、枚、折、屋、の、が、う、の、同
内、へ、き、よ、の、を、夏、見、し、ま、ん、と、決、り、ん、と、あ、い、せ、し

二六五

小切を抽出し四十餘枚を得、表裏を
ラ、の、改、装、衣、を、托、す、之、俾、末、田、吉、五、中、の、こ、も
ウ、井、大、キ、一、二、瓶、音、を、兼、る、夜、こ、入、り、訪、ぬ
春、次、故、古、の、ま、ね、に、念、念、と、ま、つ、と、夏、流、

八日

日

晴、朝、夕、旅、帳、を、考、へ、ま、亦、自、家、の、経、歴、に、関
する、文、書、を、教、心、起、し、ア、ル、ハ、ハ、に、収、め、を、略、す
成、り、小、折、善、四、中、耳、訪、重、松、池、二、兼、に、家、族
より、来、出、光、を、付、あ、て、田、原、尾、に、飯、し、武、老、の、飯
の、味、書、と、見、日本、橋、と、田、原、の、白、木、尾、に、三、三
の、物、を、獲、ぬ、舟、中、に、酒、飯、を、給、ふ、と、書、後、幾

此し、鉛筆の物と雖も、郵部、中書、武蔵部、
樂府、映書、を免味、等、のり、と、ゆ、

十二日

明治四年、今、此の、事件、に、付、其、返、答、其、其、の、
家、内、架、の、回、答、を、高、ら、し、未、だ、廿、日、皇、
國、火、災、の、大、火、野、心、を、免、味、に、指、し、其、其、を、
著、し、本、年、亦、逸、草、一、冊、を、刊、し、之、を、今、日、
多、く、し、り、し、其、其、を、免、味、に、終、り、其、其、を、

十三日

明治四年、今、此の、事件、に、付、其、返、答、其、其、の、
家、内、架、の、回、答、を、高、ら、し、未、だ、廿、日、皇、
國、火、災、の、大、火、野、心、を、免、味、に、指、し、其、其、を、
著、し、本、年、亦、逸、草、一、冊、を、刊、し、之、を、今、日、
多、く、し、り、し、其、其、を、免、味、に、終、り、其、其、を、

森、脇、田、村、文、の、音、聲、の、行、を、難、こ、つ、き、其、其、の、
結、少、方、針、を、取、り、こ、し、決、し、り、去、り、其、其、を、
を、著、し、し、時、を、納、め、午、後、傳、へ、り、其、其、を、
行、事、を、其、其、を、訪、り、其、其、を、本、古、版、を、本、書、
を、購、り、し、ゆ、

十四日

明治四年、今、此の、事件、に、付、其、返、答、其、其、の、
家、内、架、の、回、答、を、高、ら、し、未、だ、廿、日、皇、
國、火、災、の、大、火、野、心、を、免、味、に、指、し、其、其、を、
著、し、本、年、亦、逸、草、一、冊、を、刊、し、之、を、今、日、
多、く、し、り、し、其、其、を、免、味、に、終、り、其、其、を、

頭つのも来訪、久江村へとと解書と好む、又
須美車馬、弟電を貰ふ、大橋、以方らるる女
の訃判、今夜品川の合、さう、凡、神のあり
只唐、

二十日

時、大須美車馬、梅状と書、香典二十四日、
大橋、新ちり、三平状を貰ふ、森陽、奥、柑、合、給、三、
来、訪、假、保、彦、次、の、り、七、五、三、
大、三、良、法、一、指、利、来、
銀、子、の、合、法、亮、三、平、の、
是、る、銀、何、者、も、山、百、合、を、
給、る、地、華、の、
平、福、を、致、心、理、し、七、時、と、
給、る、今、夜、六、時、品

二八

田、完、一、通、長、日、
批、え、行、く、十、時、
外、三、葉、お、子、
品、川、の、

二十一日

而、大、案、の、
七、病、
中、西、忠、
香、典、
中、粒、
紙、念、
満、了、
災、の、

符部と柳橋鬼術：飲ふ、其日衆儀現解
散せしむ。

二十二日 日

時相も能好と申す、村山秋浦より物を贈
る。時を有橋源より自著此巻一史地記
出改の件に於て是訪りの所生年、傳説合致
ら借入を乞ふ所：つま来を供内言をらふ
り故前の解部を贈り来る。為六二番字款并
二枚お席風一双表しる：伝部を分出来、
安達安太より支度ある思のふしと返す、真
宗典二と白菜漬物一箱列来

二三九

二十三日

時相も能好の存相を懸心記し、中をと
費す、段口献吉来給、吉田春太らの物
を列る、高橋源一より一箱、午後七川
つ、其過墓下の存相を終る、三時に出改の
二列り、是より出供り、又く、張屋に、四より三
の吉と井も、改り、の改好の支衣長、花田
助也ら、一雙、一雙、一雙、一雙、一雙、
の金毛、板又、直、一箱、を讀む、板来、而、一書
交り、列る、昆、白、造、ま、り、一書、也

二十四日

高田久敬より来たる千段七絶事の稿を
依頼必来り前年朽木
山陽外史十二枚原風の添巻に跋語を
書今夜未なり出版部主人と多し印刷
社の職員を招き集り、漢法社在東朝日
寺より来り簡。

二十九日

町長井城心算の上で長次より来たる
葉下の稿を終る。十時迄を待たず散策
栲野の物を贈る。午後、夕刻に夜
に就く。拉木居三入迄板の手を入る。

三十日

町西陽齋村山陽の常風より来たる
稿に七子とある。跋を刊し、木林編註を
書る。おぼろぐり印刷會社より来たる
小久田村を合し、文の出版の懸念記の
寄稿を協成し午後三時迄に八公打一
太くし、身も高橋源平より来たる内子
漸く軽快。

三十一日

町長井城心算の上で出版の方より来たる
三つと稱入る。早稲田の田舎者

池田の扶輪を檢出する。十時早大に
赴き、坪内忠正の遺稿を讀む。其の地鎮祭に
關し、實業系殊に對して是れ出版部の
幹部會に臨み、午後四時程に退散畢
つて、河内府津高町に別荘に於て名
一學所訪問。早大三光の映書を見
大隈公使に對し、演稿讀み、皇族集
の世話會に臨み、夕刻由吉、上野清
孫谷村一丸に對し、來出

三日

朝來池田の宿を終り、十数枚成る。並末

完大了。東法、静寛院布日記二冊購入。午
後出版部にも、次年「武」の題名を台議
臨む。主として廣生春人：親と本堂を
不あり、大体終の集の查定方針を派し、夕
刻日比谷の幸樂を去り、利り回者、飯塚分
會の親親を、略志、京都、谷村一太、印
り、海部の釜崎と略志、先般贈り入れ
る瓶の計の台に交つて、とらう

四日

時谷村一太りと、酒を投ず、隨市への利
を修め、三年に、むらじ、午後散策、文

行者：回方を嫌ひ決出候：四つ折る候
：飲む、よふる合家人を撒く、古物、栗
城、方未也相解、栗を貯る、出候、新
：是も毛、送利未

五日

日

時、其、酒、花、び、く、美、甲、又、為、の、玉、を、ぬ、す、り、候
：酒、の、ひ、え、お、成、の、無、事、候、あ、り、十、時、と、ま、を、
は、り、を、ぬ、す、り、物、を、貯、り、出、候、の、
物、多、く、酒、飲、り、し、ゆ、く、山、を、文、行、わ、り、候、
を、ぬ、す、り、候、
内、に、お、も、い、を、托、し、候、玩、具、外、一、也、未、也、
教、の、も、根、飲、候、ま、も、雪、降、り、

六日

雪、新、酒、の、小、品、集、に、玩、具、の、二、三、の、歌、を、共、に
し、十、時、ま、り、候、異、も、高、地、の、山、の、三、平、集、
に、念、下、几、ハ、ハ、に、ぬ、め、り、候、余、の、字、を、も、撮、り、
来、り、今、の、看、後、の、三、三、二、四、を、す、り、向、十、時、特、お
平、南、朝、解、身、を、折、り、出、候、の、清、水、也、

七日

礼光二桐二個木代百七十五日おぼる、真
時桂守申し、来間、三枚守中吉折の
裁判、干後五時大張、今般、於七取、
身、会長、申す、の余、二動、し、御恩、合を
し、ら、も、今、多、二、四、早、多、一、藏、金、し、た、る、資
を、以、り、て、書、の、架、三、個、を、給、ら、る、一、日、守、を、
振、り、つ、後、の、家、合、に、給、り、席、上、余、誠、辭、を
陳、し、九、時、物、電、告、御、成、り、五、十、日、の、方、附

十日

時、六、家、并、五、十、鬼、敬、止、の、也、状、も、も、包、す、
程、打、と、示、し、実、証、金、書、出、版、の、件、に、竹、本、林、福

田村文の云候の件、三つき来候、程、好、を、筆
あり、午後、早、大、の、催、指、負、合、に、依、り、今、後
公、中、大、王、寺、に、三、枚、守、之、申、入、告、
別、式、に、候、又、考、箇、六、十、日、を、賜、ら、る、進、奉、
二、つ、き、松、井、部、流、り、来、出、証、を、電、報、候、り、も、
亦、後、亦、士、と、信、頼、し、来、り、進、奉、の、原、
稿、の、九、枚、葉、し、り、又、賜、ら、る、に、也、

十一日

純元節

時、徳、孝、の、存、候、を、此、る、名、和、候、の、近、況、候、
書、に、終、り、直、り、年、に、了、南、米、向、開、る、消、
息、別、々、十、時、候、に、も、雨、降、り、出、し、煙、を、捲

一七又隨筆に收る(七)四十七山伯の事をも
芋子也し、夕飯ともいふを并敷放成る。午
後雨変しと霽露りたる雪とある。四時次
まが雪堆を去り尚志せり入降る。五時
東京合殿に早大出版部の全蔵を合
し初年之の合をとる。合と高田飲詞と
リ刊示漢訳を考ふる。

十二日

日

晴、今朝六時淑雨あり。日本外史書藝記ある
休井清三(ま)高村と清六、隨筆に收る(七)山
陽の色より一劃の存を授く。十時先を伴て

出浴日を橋原生と物を贈り味美に飯未だ
湯松井群法と差あをを花美、高田真歌
也若(ハ)ソリニ一と題する。早大と余の所
得款(一)きよまゝ又四時合らる。午
二時又一方振り自動車と駆り高田合の別荘
を訪りて道具(荒干)と検出しおち物(一)列
森あり合(一)二(一)三(一)外(一)四(一)玩具と
贈る。五時品止る。未雨

十三日

晴、朝来玩りて教正記あり。毛利富彦(其)過
ムソリ一の侍を漢ら、南徳文雄の懐舊録

飛才二の結山帳に入らば旋受二十枚種を
抽出、子校種欠抽出包ま大坪の島各
二枚種是れ一と返ふ十時出假部の特許部
令に臨む、陸軍省査定を派末午後
華族會館に到り支的部令の呈請令
に臨む志之誠次郎の専的習と海
自由貿易論海國論海防論と修
り土産論ありと大隈轉任社
大田の店副社と木挽金田中
和飲、子校幹部と共々令る其つた

時新島田丸塚ニヤ選者古路不野
虎債夫とし余の推し廣生ととめ
即ち自著の書文をせす、新島
又一としいぬ、南條あすの懐
パンドーんの試成る寺尾元
兼、子校種抽出後、午後
田の親族市田、和人の信
特春、終日帳と制を、毛利
し、未だ大概文章長折

の書状四紙一全宛にて接列 植木屋結子
口ニ井端を必う外部と見え物産を教
ふ午後先を伴ふて出遊給す、西洋玩景を
指心浅きと羨るるを憐れ、五月三〇日未十
歌の書合券一冊を録取ていらくも()とまの巻
入るる事なり

二十三日

昨今朝の新聞紙に政友二の土民政二万三と
す尚ほ未決并教名あり、詰り政友ある
へきも其差をみるもさう、政府の務むを重
かること大なる改るるたけは、法敷の趣きと

二二

中身の向背に依つて決する抱負也 楠瀬自年
来福十時出版部の重役會に臨む、午後
部員と()年中()三の案件と話し
吉原に林校長と話し、物さる、新聞記
者才木君、六月の社に罷り、後世の
列とらるる()の余に、孫次郎の事
もとせ、()も返り、植木屋池畔の
()を心する、()の事、()民政、()西条の事
を以て、()と信入る、()石河()
報列

二十四日

昨今朝の新聞紙に政府を違ふ二名の差

を以て氏以堂を抜くと報ず、是年春
の石室に頭部科石文の法政中
郎下等法政の六段の森を
三月一日
三月三日
三月五日
三月七日
三月九日
三月十一日
三月十三日
三月十五日
三月十七日
三月十九日
三月二十一日
三月二十三日
三月二十五日
三月二十七日
三月二十九日
三月三十一日
四月一日
四月三日
四月五日
四月七日
四月九日
四月十一日
四月十三日
四月十五日
四月十七日
四月十九日
四月二十一日
四月二十三日
四月二十五日
四月二十七日
四月二十九日
五月一日
五月三日
五月五日
五月七日
五月九日
五月十一日
五月十三日
五月十五日
五月十七日
五月十九日
五月二十一日
五月二十三日
五月二十五日
五月二十七日
五月二十九日
六月一日
六月三日
六月五日
六月七日
六月九日
六月十一日
六月十三日
六月十五日
六月十七日
六月十九日
六月二十一日
六月二十三日
六月二十五日
六月二十七日
六月二十九日
七月一日
七月三日
七月五日
七月七日
七月九日
七月十一日
七月十三日
七月十五日
七月十七日
七月十九日
七月二十一日
七月二十三日
七月二十五日
七月二十七日
七月二十九日
八月一日
八月三日
八月五日
八月七日
八月九日
八月十一日
八月十三日
八月十五日
八月十七日
八月十九日
八月二十一日
八月二十三日
八月二十五日
八月二十七日
八月二十九日
九月一日
九月三日
九月五日
九月七日
九月九日
九月十一日
九月十三日
九月十五日
九月十七日
九月十九日
九月二十一日
九月二十三日
九月二十五日
九月二十七日
九月二十九日
十月一日
十月三日
十月五日
十月七日
十月九日
十月十一日
十月十三日
十月十五日
十月十七日
十月十九日
十月二十一日
十月二十三日
十月二十五日
十月二十七日
十月二十九日
十一月一日
十一月三日
十一月五日
十一月七日
十一月九日
十一月十一日
十一月十三日
十一月十五日
十一月十七日
十一月十九日
十一月二十一日
十一月二十三日
十一月二十五日
十一月二十七日
十一月二十九日
十二月一日
十二月三日
十二月五日
十二月七日
十二月九日
十二月十一日
十二月十三日
十二月十五日
十二月十七日
十二月十九日
十二月二十一日
十二月二十三日
十二月二十五日
十二月二十七日
十二月二十九日

二十五日

時古殿本空紙數十枚を鶏肋新氣法込紙

収あり、金武千田文由書信ニ代貸廿五月上旬返却
の約也、右海三の進系取後
高須其の次
家元印 三十七
配本、石原長
面賜
赤人の居
平丸
中

二十六日

日

時、藤田貞敬、其の昆田の経歴を前田、つ
き二時分計り、終る。服部村元をア、又延
祭の花火外一を贈る。旋程を兼、午前
後迄を伴、その日本橋、御、物を、部、樂、を
の、映、畫、を、観、望、す、今、外、家、の、演、説、を、山、陽、居
の、山、陽、居、中、通、一、次、校、補、海、軍、を、山、陽、居
の、山、陽、居、を、考、す、余、の、經、歴、を、七、七、の、
廣、化、論、の、の、こ、も、也

二十七日

時、理、部、發、出、政、部、：、利、り、こ、ろ、山、陽、居、入、浪、乐
政、：、一、二、の、回、も、も、購、入、出、政、部、：、近、刊

書、六、冊、配、本、松、久、友、と、飲、ち、特、舟、幼、室、四、
十五、田、松、久、友、幼、室、の、八、十五、田、佛、海、内、
子、：、四、の、田、交、行、校、場、州、宏、と、春、吉、を、
也、

二十八日

時、早、中、の、幹、事、：、廣、本、義、堂、未、活、山、田、信、介
來、活、復、本、信、介、を、配、本、以、及、江、本、一、長、法、の、
田、山、交、文、者、物、を、萬、原、可、子、の、山、田、植、木、職
の、池、の、志、介、と、友、を、心、を、替、り、す、大、作、言、回、祥
三、時、：、こ、も、ま、も、今、夜、同、考、館、場、心、活、激、矣、會
あり、欠、席、し、

二十九日

味新米地葉の宿を晒し、段上米を注
射を交へ、日印光之久の養分、ちい、や
池の志から又と他より、鹿村大林、木三十
本、使用土の不足を補ふ、以て大穴、突、
の腐瓦を破り、も、物、用、力、所、謂、
三年、蛇、の、講、に、流、ん、が、無、用、の、用、
作、良、次、内、田、栗、園、も、ま、ま、
古、者、し、て、庭、中、に、古、瓦、
日、分、百、田、田、掛、流

〇三月

一日

味、田、代、亮、分、木、林、編、み、
一時、早、大、の、貴、重、年、初、
協、日、内、些、人、等、保、淡、
加、三、時、況、合、物、志、
寺、廣、漱、心、吸、ら、
又、日、印、刷、合、社、
成、了、

二日

味、而、板、木、尾、尾、
年、正、長、河、公、和、
片、山、利、久、
木、次、
橋、瀬、
日、

華山の遺跡を五六冊と撰ぐ目録を
先づうらなひに書き終へたるあり、
神社の新年法事終つて後、
三候七階揚上と大正印の
見出しを改し、武蔵野の
ストの映畫を見ねこ
や色々と余の押書
の、梅枝日年をも
も終る

三日

晴、田中光顯伯の肖像一稿と早大と
二八

このまゝ其の添状のり
久二部(支)す、
このとき余は
ホニニ
源三
報し
の協
文
と乾
家
十
二、
一幅

不在中矢吹有三未訪

四日 白曜

昨日友位托今礼を以て賦務便境を定むる未
旅録を著し一時を移す終日庭園の修
理を督す

五日

拂儀を以て雪降る行村宗八未訪小林連上大夫
此夜死去の報利の才二皇女宮態の節の出
づ明沈銀の支店長岩田助中印を以て訪
物を賜ふ午後光を付て丸じんに列り物

を贈る雪あり傍き三時迄二三寸積りる
後隨着の好を感ず片山伸死去十数分
このき未出之時頃より雪止り

六日

昨日の雪内の雪を掃ふ小林豊たるの雪の上
御堂あり式あり知列るれこの雪の午後二時
也午後三時真宗林内御沈のおりて大
隈侯の書をおり来る榎守を以て不
正事なりとあり和四代と未出所得税徴
符到り

七日

晴寒氣烈。吉田秀人未訪。雖て段上此為未診
注射を交く。谷村一夫。杉村通三。年治。野山陽
杜崎のり。保柄を示さん。且是運を先ころ。
九物。若松。朽木。順心。と。鞠の。智。遺。を。好。々
。能。保。を。考。へ。す。二。時。を。東。京。合。體。に。到。り
。日。清。印。刷。會。社。の。重。役。合。會。を。ひ。く。此。席。に
。可。株。以。上。の。株。主。を。合。會。し。合。社。の。増。資。計。画
。を。及。表。し。今。こ。し。合。社。の。経。営。の。き。一。場。の。決
。議。を。為。す。未。合。此。負。重。二十。五。名。を。考。へ。後。合
。會。後。散。す。木。林。安。夫。と。未。間。三。於。後。を。送
。り。來。り。支。那。泰。山。山。法。大。表。次。の。酒。也。也。

二八

八日

晴、此秋三竹之久。雲内親王。妻志。地。兼。系。系。三。四
。枝。宿。ま。山。の。清。能。来。は。枝。木。花。壇。を
。必。り。如。五。十。時。出。放。野。の。野。部。合。て。路。也
。午。後。二。時。的。屯。又。隨。者。の。好。を。修。む。五。時
。秋。知。社。の。為。り。の。ま。ス。テ。ー。レ。シ。ヨ。ン。ホ。テ。ン。に。會。し
。中。福。万。物。結。成。十。分。の。溝。口。山。田。等。臨。世
。餘。に。送。訪。者。人。々。と。れ。今。又。枝。の。社。
。於。て。信。手。渡。世。給。海。列。合。つ。き。注。取。の
。協。政。を。考。へ。十。時。の。書。を。考。へ。此。件。に。き
。注。取。を。考。へ。此。件。に。き。

九日

陰一天雨と催す。五丁家の秀頼の歎に是れ忠
を為るべしと先方より利来の之状と家來の回
付す。小林中より片上仙古遊二つとも不状
を尋る。示林を去る。此忠を尋る。山陽
の盡杜鵑行の一面に懸る。紫雲新丸印
其訪今次の普送遊康の状を載す。且つ物を
贈る。小久江中より取手宿を此よりおる。
午後移り。二丁中より同類金引出。克を傳
ふ。武藏守の状を又四原をに傳
ふ。物入。出陣。内子病氣。兄島。西風
を尋る。来。夜来。

十日

兩朝来。施録を尋る。十款合。受る。五十四
吉田。来。交付。家用。五十四。内子。酒。干
後。七。施。録。を。尋。る。き。つ。く。酒。田。の。状。を。尋
る。来。問。良。高。の。像。二。基。代。七。十。四。日。送
り。来。二。晚。万。前。田。来。冷。田。代。高。女。を。来。問
夜。来。而。風。干。

十一日

日

兩村村宗八。来。出。新。安。社。度。生。值。上。の
子。に。聞。す。施。録。を。尋。る。表。里。分。古。津
事。の。十。款。の。指。の。表。此。忠。を。托。す。池。草。の

十四日

晴風 隨筆に叔父の著したる道楽の江田三枚業
心、森藤毛利長著の及後、平山を著し書
畫に三枚三日の程を經つた事あり、二千子年未亡
人に吊状を記す、午後二時早大の催物券
今に備わ、隨筆と決定する、田舎中と出版
部の件と話しあふ

十五日

晴朝未過業の程を屬し、五枚成る

田舎中、東坊、段田早苗著の驗記の
複製本を高くし、来り示す、後成り、草
元其集の複製を、お嬢ひん、江
成一と稱する、田の歌、段の節を流し
出師、新し、種村、長本、来り、今し、出版
部、今後の出、段、計、三つ、ま、七、の、字、協、漢
二時、三、由、毛、植、木、局、七、家、の、柱、壺
七、心、の、是、道、重、柄、を、あ、ら、ま、の、り、の、り、の、り、の、り、
列 5

十五日

晴朝未過業の程を屬し、五枚成る、内、の、す、め、

研究會の大段徽印及び善書等、此の不感に
證る。小江村一廣と云ふ神祇の事、伊達侯
克も未だ聞、関大り、其の物を贈る。午後
亦隨筆の事、四五枚ある。

十七日

町、朝方の隨筆の箱と云ふ、百首、出来、脱
稿、日、淡海の件と云ふ、河井山田、其の事、淡
生、多、湖、の、事、久、江、村、村、其、淡、楠、瀬、日、其
又、其、淡、も、家、を、淡、す、件、の、事、田、村、村、二、印、を、扱
き、世、流、を、頼、む、午後、美術、佐、木、部、に、控、ける
行、田、村、家、の、考、画、美、三、を、又、見、る、瑞、流、の、事

一八の巻

亦も、多く、乾、山、の、元、又、目、を、意、く、今、起、印
副、同、業、の、見、出、合、を、早、急、急、急、急、に、ひ、ら、き、新
印、刷、留、各、村、粘、三、を、扱、く、今、名、臨、席、に、宴、席
上、三、社、の、出、席、者、三、十、五、に、代、り、し、氣、味、を
吐、く、高、村、克、三、を、古、寺、社、か、る、合、の、事、記、入、る
こと、を、求、め、未、だ、

十八日

櫻、橋、日、波、岸、入

町、野、津、大、三、より、甲、者、日、六、と、定、め、未、だ、
阪、上、山、花、十、五、つ、と、注、射、を、施、す、例、の、如、し、新
物、朝、去、坊、西、利、と、云、ふ、事、元、真、集、代、十二、日
拂、通、野、津、大、三、同、者、日、六、を、考、へ、る、
去、給、村、家、の、事、白、由、を、考、へ、る、未、だ、〇、花

録を著す、午後四時、乘じえをばせ出
海、武蔵野の映意をる、船中の舟は、
致し七時、楠、澗、廣、瀬、淵、と来也

十九日

時、船を著す、山田、中田、福、無、来、海
流を、早山、の、遠、舟、獲、志、の、如、又、を、更、を
か、七、時、す、其、時、白、魚、の、海、を、是、る、午後
各、柳、に、住、く、す、船、を、著、す、

二十日

時、船を著す、山田、中田、福、無、来、海
流を、早山、の、遠、舟、獲、志、の、如、又、を、更、を
か、七、時、す、其、時、白、魚、の、海、を、是、る、午後
各、柳、に、住、く、す、船、を、著、す、

多のの塾未去らる、時、舟、は、柳、に、か
し、或、の、柳、葉、を、取、り、ん、こと、を、意、う、後、上、と、し
あ、と、注、射、を、受、く、午後、大、隈、分、館、に、演、講
演、講、の、委、員、を、令、し、七、時、分、館、に、就、し
協、議、す、海、を、著、す、山、田、の、船、を、出、渡、り、致
志、を、著、す、船、を、著、す、澗、に、投、す、山、田、の、舟、の
為、の、舟、に、感、恩、の、為、の、舟、を、取、り、ん、と、す、
と、す、と、す、

二十一日

春、赤、子、の、宴、祭

時、風、朝、来、船、を、著、す、山、田、の、船、を、出、渡、り、致
志、を、著、す、船、を、著、す、澗、に、投、す、山、田、の、舟、の
為、の、舟、に、感、恩、の、為、の、舟、を、取、り、ん、と、す、

兒時も行かず、人を傳へて庭を這り、度々林を
片つけり。其も後重極し、遠く交野を指
り来り。又利田皆の川生後、比合と扱の兒有、朱
町の寺船屋別館に行く、日本歴史圖録卷三
輯配本

二十二日

晴、此夜お天をみたりし為り、靴未氣あふ己
のし他者、こねあふま、相中女小記の原物に交
扱著し、ころ、内宿之宛、ころし、人時田丸花を
給ふ、来り、其息、早大得、業怒、乳職、乳
乙也、山林以上、関大り、来り、関の、ころ、

廿二押書、午後寺崎文章、来り、梅あり、遠の
相中女と題し、詢、徳、ゆ、来り、に、アノを、理、す、午
後、徳、業、の、相、あ、ふ、小、記、に、扱、め、ん、と、を、清、分、山
の、火、坑、を、祝、の、記、を、作、り、ち、中、山、清、分、心、院
より、此、芳、庵、の、年、忌、供、養、に、付、来、り、

二十三日

晴、梅嶺の年忌、来り、其也、徳、業、に、扱、ら、へ、く、白
雲、金、洞、二、山、清、記、を、記、帳、し、し、後、記、し、て、著、り、
心、印、刷、向、未、杉、精、三、と、前、夕、の、記、状、列、る、
十、時、三、十、分、地、平、居、あり、可、る、動、塔、を、後、午、
月、中、清、分、より、道、某、小、冊、を、送、り、来、り、午後一
時、より、華、族、分、館、に、行、き、文、的、振、合、の、御、合

といふに内田嘉吉のちりめりこに於て欧米無窮
電信の視察記を多く、四回合ふる未也

二十四日

昨相来旅泊をせしす、田中智子とて未也
十時を過ぎぬと出立、西洋の表の籠子を携ふ
又て心算帳を懐へ、味を飲して谷
田より文の巻をゆきわく、を河久雁洋と名
程切迫に甘告おの着て也

二十五日

昨相来旅泊と兼り、元丸彦海行うりき改

二八〇

上場士に於て家族外婢女を種痘を受
く、木林崎より山崎の宮丹を贈る、其
後芳次ら未接、未洋隆を命ずる、其
院ハッまに付、未接物を贈る、其後行宗
ハ耳訪、及上娘に世帯地を贈る、難波理一
市に、同す時、田九花とて未也、其須橋氏
らに、心算帳(種痘を言ふ)を贈る、其須橋氏
を稱す、又須美、東西とて香苗(石)一、及物
を今のをいふ。

二十七日

昨、後而到る、其の留札も、純池、市文、其

選集第一巻の配本を乞ふべく、久江東坊、四新
文に對する出版施設業の廣く不協の響
効を奏えし、**岩屋版**を報ずる山の志、**山**
リ復を乞ふるも、**芥**に未刊隨筆一冊配本を
乞ふ。印刷分記の塙、**修三**、**東坊**、**岩屋版**
の子の書と傳くを云りす。隨筆の行を
尾し十数枚、**成**、**森**、**協**、**合**、**務**、**の**、**き**、**来**、**流**、**四**
甲五の圖書、**報**、**協**、**合**、**務**、**の**、**き**、**来**、**流**、**四**
行を換出し、**如美山**、**紀**、**の**、**全**、**部**、**書**、**き**、**改**、**出**、

二十七日

昨、朝来渡り山遊記を方とて、**果**、**の**、**費**

名流屋の好書、**名流**、**(海堂)**、**其**、**流**、**自**、**書**、**と**
那も、三四の如く、**山**、**の**、**名**、**刺**、**を**、**述**、**ぶ**、**流**、**と**
伊三克、**の**、**其**、**息**、**流**、**の**、**書**、**現**、**代**、**美**、**の**
思潮を乞ふるも、**横**、**尾**、**文**、**の**、**書**、**江**、**文**、**の**
浮元、**燈**、**漫**、**遊**、**文**、**集**、**三**、**冊**、**刊**、**幸**、**村**、**山**、**秋**、**海**、**の**
訪果物を賜ふ。海堂、**伊**、**三**、**克**、**の**、**海**、**堂**、**を**、**乞**、**ふ**
す、三枚守情を乞ふ。父七、**子**、**の**、**物**、**を**、**賜**、**ふ**、**未**、**の**
隨筆の原稿を教へ、**七**、**時**、**を**、**乞**、**ふ**、**未**、**時**
借出、**國**、**の**、**新**、**の**、**書**、**板**、**時**、**代**、**の**、**所**、**定**、**の**、**を**、**乞**、**ふ**
く、**大**、**改**、**神**、**田**、**某**、**の**、**野**、**菜**、**を**、**乞**、**ふ**、**平**
山巻、**の**、**書**、**山**、**某**、**の**、**目**、**録**、**刊**、**来**、**二**、**冊**、**五**、**十**、**冊**
内子に交付、

入りの件につき依頼を受く、午後聖枝四甲
穂積雄俊様よりこの旨伺い一時は大方恨合致
に渡すの旨行重受を命じ、今重受を命じ
泣取の控取を考す、是れ人等をひらく件
建築を管校の管理に務む件、首成式
前夜申す事等を定むるの必要あり、
て常任委員、重受に決し大段
今重受に務む旨の旨は、永後福源の映
畫を見、此松井今此の如く候も
ハサシの如く、一生を執り、二時あり、
河、映畫を見、松井の森、格隆の幹
旋、係、六時、是、大段、今、此、合

分り七、此、所得税、三、九、七、七、四、納付、
ち、地、義、方、り、と、来、出

三十一日

小雨、相、耳、旋、回、を、事、す、依、差、際、り、メ、ロ、ン
を、起、り、来、り、十、時、迄、と、存、せ、り、日、を、務、給、生
に、物、を、難、心、給、部、ゆ、給、生、に、執、時、計、の、終
記、を、托、す、渡、名、金、田、に、致、し、仰、給、田、原、所
に、主、之、の、日、本、国、者、給、協、会、に、是、を、来
書

〇四月

一日 日曜

小舟航清詠を讀む人を就て庭を掃
ひ切の所迄と掃根を冠て花壇に花弁を
植ゆ。後村家の守家詠紙後新の亮大印
の遺物を知り来り。正午一碑。走を付ぬ
茶花の種子并に二三洋花を購ふ。海
の高打光雲衣壽祝か父公の由縁州
の外出中秘田萬吉と名は

二日

晴夜航清詠を讀む。本林陽田村来詠。其四

昔者平三回配奉出詠部。引り部負て武
田尾去を命し。散策神田の一二名所を詠
めし切了。杜詩洋鈔二冊購入。日本茶壺二
葉。同政解詠全部配奉。詠部のセブノを
現す。楠嶽曰年々未也。乃包高ぶら。高
茶壺の事也。

三日

神武天皇祭

お雑炊を肴し。赤尾節の行を二倍す。
青い紙を浮世傳。長流のり。つぎ来
接。心石井安ら。又二回方徳。佑大り。
も早稲田。入る。あ。つぎ。来。接。物

昨を来の午後始めの間に乘り上りの場迄
を船中この船に精説を述べた
一、藤原俊成の事
の福を属して八枚成る事
来

九日

朝来臨市の行を属す、本林臨並木
来、干しつゝ活潑な事
この多時愉快なり、午後出ぬ部の行
部会を臨む、大坂市東区部の境
一、芭紙五枚指し、不左の由

神の御あまの御言を来思ひ出ぬ物
子も来出、宮城野同考、長池田為左衛
門も来候、亡方唯三十三回忌辰の事
候を申へて候、廿日、芳澤政房、杉枝友
合、臨む、この決意、成方志を付せ、教業
浅学の記音を其書し、金田と想へて候

十日

向、雜流、権舟、一稿と後、一氏、美良
全、點、情、教、の、北、深、下、市、来、治、程、村、字
八、野、も、来、の、船、流、権、舟、の、記、者、横、山、八、中
取、込、漢、流、の、乳、七、の、余、の、瑣、談、と、も、と、い

付のし出旅をよめ格も、乗船之間、三上陸して
堤上を見まへ、心風も今も一更のついで、三浦地
帯とありし、ふかき霧は、河程あり、橋を
一村もさく、殺しを云、りんか、り、
るし、日を指さし、四つう、ゆき

十三日

昨朝来船、筆の箱と終ち、田村北二ヶ上、
喜永次、来接、宇都を、其時、典二と、
言の葉、子と、まのて、まの、午後、七時、
と、終の、箱、あ、お、池の、部、校、異、の、北、城、義、氏、
侍の、序、文、を、上、會、就、一、柱、に、頼、り、見、
茶

兵衛上流の結末を、後、日本、
来廿日、記、念、式、あ、内、状、列、る、原、紙、
浪、記、の、好、と、室、の、七、
十四日

昨朝来船、筆の箱と終ち、
湯田村、其、時、あ、つ、来、り、
員、會、を、附、す、心、を、
城、邊、り、五、時、を、
と、も、同、寺、
い、ら、く、の、
の、由、
余、を、
推、す、
あ、る、

十五日

日

昨朝来上座を喜ぶ次の場と云い寶曆義
 民侍の席文を符出を法る、其所の生力山
 来梅、その洗足打、固者彼協会の大座
 ありとも行かず、午後砲打の行を終め
 時を移す、五時在東合殿、吐き固者彼協会
 の親、親合、臨む、本日の大座に余、高座に
 推さる、親親合、席上余、法、と陳
 ふ、河井、東、後、ら、す、又、今、江、原、三
 郎、ら、も、来、也、今、夜、今、井、四、一、村、崎、諸
 君、種、々、あ、と、牡丹、に、相、飲

十六日

昨、行打宗八の馬治殿へ大座、理、の、一、年、三、隨
 著、の、稿、三、東、交、代、上、座、に、並、ぶ、と、さ、義、民
 侍の席を考き、直して成る。今、江、原、三、郎、
 及、河、井、を、授、す、午、後、義、民、會、殿、に、文、の、協、会
 の、役、吏、人、等、と、ひ、ら、き、評、議、員、人、等、を、ひ、ら
 く、五、時、在、東、合、殿、に、喜、お、支、雲、の、祝、壽、合
 二、臨、む

